

『流れ星が落ちてこない』

登場人物

河合鈴^{すず}／七瀬ヒカル（22）アイドル

松村留美（21）ホテル従業員

堂町真治（24）俳優

○キャンプ場（夜）

鈴と真治、寝転んで夜空を仰ぎ魅了されていている。鈴の瞳にキラキラ映る満天の星空の中、不意に流れ星が走る。

二人、手を合わせ願ひ事。

堂町「ヒカルは何願った。俺のこと？」

鈴「ヒカルじゃなくて、鈴って呼んで。私も真治も、いつまでも輝いていられます様になって」

堂町「……流れ星ってさ、燃え尽きて落ちるところだろ。そう考えると不吉じゃんな」

鈴「やなこと言わないで」

鈴、堂町をつつくと抱き寄せられる。

鈴「……きつと、落ちないでずっと流れてるんだよ。ねえ、だってさ真治」

堂町「打ち合わせ戻んねえと」

鈴、体を起こし。

鈴「星が地面に落ちたところ、見た事ある？」

○恵那峡国際ホテル・客室

サングラスに薄化粧の鈴、ベランダで
珈琲を啜る。景観の先に観覧車。

室内で留美が清掃中。

留美「河合様。こちら（酒）お飲み物まだ残
ってますが、捨ててもよろしいですか」

鈴「いつもごめんねー」

留美「いえ。それと、こちらロビーに落とし
物届いております」

留美、アクセサリーを置く。

鈴「ねえ。恵那って、ここやあの（観覧車）
ワンダラーランド以外に何見ればいい？」

留美「そうですね。市内散策して景観を眺め
たり……あ。岩村城下町」

鈴（アクセサリー見て）「そう。ありがとう」

○ネット記事

アイドル・七瀬ヒカル（鈴）と俳優・

堂町真治の匂わせ交際発覚記事。

お揃いのアクセサリー。

○恵那峡国際ホテル・バイキング会場（夜）

留美、鈴が飲み潰れた席に水を運ぶ。

留美「河合様。飲み放題90分を超過しました。もうお休みになられては」

鈴（酔って）「お金ならあるってばー」

留美「こちら、お下げしますね」

留美が食器を片付けていると、鈴がテーブルにアクセサリを置く。

鈴「このアクセ。『NANASE』って描いてあるんですけどー」

留美「……」

鈴（留美の名札見て）「松村さん？ どうして、

河合の部屋に届けたんでしょね」

留美、手を止め、頭を下げる。

留美「……ずっと、ファンでした」

鈴の声「ファンへの裏切りにならない？」

○回想・スタジオ廊下

鈴、人目を気にしつつ電話中。

鈴「私は真治の方が大事だよ。でも、『匂わ

せ』なんてする意味あるのかなって」

堂町の声「無いし、ファンへの裏切りだよ」

鈴「え？」

堂町の声「だからするんじゃない、悪い事。いけない事。俺たち以外の世界にとってはい

鈴「……私達だけに、意味があること」

堂町の声「しちやおうぜ、悪いことをさ」

鈴、アクセサリーを眺め、ニヤける。

○現在・恵那峡国際ホテル・客室（朝）

鈴、寝乱れた姿で痛む頭を抑える。

留美、頭を下げている。

留美「今日を最後に、担当代わるようお願い
します。決して口外はいたしません」

鈴「よくわかったね、私が七瀬ヒカルって。

すっぴんだと酷いもんでしょ」

留美、激しくかぶりを振る。

鈴、アクセサリーをゴミ箱に捨てる。

鈴「ねえ松村さん。案内してよ、恵那」

留美「え」

鈴「それから、下の名前教えて？」

留美（困惑）「えっ、……ええっ？」

○恵那市散策・点描

鈴、留美と市内や観光地を散策。

× × ×

鈴と留美、河川敷で川を眺める。

鈴「どうですか？ 落ちたスターは」

留美「ヒカルちゃん、落ちちゃったの？」

鈴「落ちたよ。もう清纯派には戻れない。う

うん、そんなのどうだっていい」

水面に映る二人。

鈴「どんな顔してファンの前に出ればいいの

か、わかんないの」

留美、鈴に詰め寄る。

留美「彼への恋心は？ もう燃え尽きちゃっ

たの？ 本気で好きだったんでしょ？」

鈴「怖いな、留美ちゃん」

留美「ファンのこと気にしてくれるなら、最

初から匂わせなんてしなきゃいいのに」

鈴「……一般の人にはわかんないよ」

留美「……そうね。わからない。知りたくても何もわからない。ただ、こんな遠くの町から応援してる事しか出来ない」

留美、立ち上がって空を仰ぐ。

留美「あの空のうんと彼方を」

鈴「私は今隣りにいるよ？」

留美「だから、これは間違い」

留美、鈴を置いて立ち去る。

鈴「え？ ……留美ちゃん？」

○ユーチューブ『堂町真治、日本行脚』

堂町の自撮り撮影で山中を散策。

堂町「こうして日々自分を見つめながら、同時により厳しく、しでかした事への反省の念も強くしております。思えば自分は」

ライブ配信。荒れるチャット欄。

○恵那峡国際ホテル・展望台

清掃中の留美、手を止めスマホで堂町の配信を視聴中。何か気づき――。

鈴、その背後にそろそろ近づく。

鈴「留美ちゃん」

留美（驚き）「うわあっ」

鈴「逃げないでよ」

留美「……間違ってるから。ヒカルちゃんは私にとって手の届かない星で。それで」

留美、鈴の涙に気づく。

留美「え、やだ。ヒカルちゃん泣かないで」

鈴「ゴメンね……本当に。私、沢山のファンの人傷つけたよね。何してたんだろう」

留美「……そういう、泣き虫で、素直なところが好きになったんだよ」

留美、ハンカチで鈴の涙を拭う。

留美「好きなんだね、彼のこと」

鈴「そうかな。恋しちゃいけないって言われたから、したくなっただけかも」

留美「そんな考え方、哀しいよ」

鈴「……ねえ、留美ちゃんは」

留美（遮って）「どうして恵那だったの？」

鈴「……ああ。二人で、いつか旅行出来たら

いいねって。地図を広げて、その……」

フラッシュ・インサート——。

鈴が見守り、堂町がダーツを投げる。

矢、日本地図に刺さる、

刺さった土地——恵那。

× × ×

鈴「……怒った？」

留美、笑いこみ上げ。

留美「ううん。それでも私、ヒカルちゃんに

会えて嬉しかったよ。お星さまが、夜空か

ら落っこちてきたみたい」

鈴「鈴って呼んでよ。ヒカルじゃなくて」

留美「やだ。こんなにキラキラしてるのに、

七瀬ヒカルはもう消えてしまったの？」

留美、鈴に堂町の配信を見せる。

留美「今、彼が配信してるここ、恵那峡だよ。

彼も忘れてなかったんだよ」

鈴「!？」

留美「……会いに行く？」

鈴「(混乱)……」

○航走中の恵那峡遊覧船

鈴と留美、窓辺の席で見上げる。

恵那峡大橋が近づいてくる。

鈴「どうしよう、留美ちゃん。私、やっぱり

まだ真治が好き」

留美「……うん」

鈴「でも。留美ちゃんの話聞いてたら、もつとアイドルやりたくなつた」

留美「——うんっ。やれるよ、きつと」

鈴「だから……これが、最後の匂わせ」

スマホの中。堂町が大橋の上で自撮りして、その下を走る遊覧船が見える。

堂町（叫ぶ）「間違つたことをしたけど、俺は本当に好きだつたよ——っ、鈴——っ」

鈴（叫ぶ）「大好き——っ、さようなら——っ」

留美M「それは、燃え尽きて流れながら」

橋の上でカメラの照り返しが煌めく。

鈴、眩しそうにそれを見上げる。

留美、そんな鈴をまぶしく見つめる。

留美M「私の星に、まだ落ちてこない」